

大内郷	高橋郷	凡 ^オ 海 ^ン 郷 ^マ				
六五町	六五町	六五町				
右全	中世全域	右全				
池内保	大内庄	倉橋郷	大川社	祇園寺荘	由良郷	
一九・二	九七・二	一六七・七	一七・〇	六六・〇	五〇・〇	
右全	右全	近世全域	大川、三日市	丸田、八田、上東、下東、水間、中山	由良、石浦、蒲江、和江、油江、神崎	
池内谷	大内庄	与保呂	祖母谷	倉梯谷	由良荘	志楽荘 河邊
七七・四	一九八・五	六八・三	八一・七	一七〇・五	二二四・七	一二六・五
堀、池下、布敷、別所、白滝、上根、寺田、岸谷	上安久、上安、清道、天台、倉谷、境谷、今田福来	与保呂上、与保呂下常	溝尻、多門院、堂ノ奥	行永、森、浜	由良、石浦、蒲江、油江、丸田、八田、和江、八戸地、三日市、上東、下東、中山、水間、神崎	多彌寺、河辺中、西屋、室牛、由里、観音寺、原、枳尾、大山、平、赤野、中田、野原、小橋、三浜
中世分より減 伊佐津が境谷より分離し中筋郷に入り				中世分より減 大川は近世岡田庄へ編入		古代は 凡海郷 管下

加佐郡古郷変遷概観

岡野 允

旧加佐郡古代よりの行政管区の分合改廃の跡をたどるのは一見容易のようであるが、その単位細胞の村（現在の大字）が果してどの郷に属しておったかというようなことになる、なかなか判定困難なものも多い。
又中世の郷荘に關しても未開明の部分がか

なりあり、扱う人により所を替え名を代えるということも尠くないのである。
それからなお各郷の開化の趨勢は如何であったかと云う問題に關しても、土地の開発度の点丈取上ても数次に亘る度量衡の改正や太閤検地による田積及び丈量法の改正、其の後

徳川時代の村高外の新田開発分の取捨などあり、その資料の扱方によつては若干数値に相違を来するのである。
しかし茲では郷勢を大観すると云う見地に立って細かい問題は一応棚上にして要領だけ大まかに取纏めた次第である。
諸表の按配、郷管の異違、田数目録私注の盲断其の他大方諸賢の目に余るもの多々あるかと危懼するが、何卒事大小となく御高批御指導を賜わらば、望外の幸せと存するものである。

第一表 丹後国加佐郡郷荘変遷表

古		中		近		世	
名称	反別	名称	反別	名称	反別	管下	記事
志楽郷	約六五町	志楽荘	二〇〇町・九反	志楽谷	一四七町・四反	泉源寺、田中、安岡、小倉、鹿原、吉坂、松尾	古代 志楽郷 管下
	最下欄の通り		近世全域	朝来谷	九七・七	杉山、笹部、登尾、岡安、大波上、大波下、長内、白屋、下谷、朝来中	
				志楽浦荘	二五・一	佐波賀、千歳、大丹生、瀬崎	
				河邊	一二六・五	平、赤野、中田	
				大志楽浦荘		野原、小橋、三浜	
				由良郷	二二四・七	由良、石浦、蒲江、油江、丸田、八田、和江、八戸地、三日市、上東、下東、中山、水間、神崎	
				倉梯谷	一七〇・五	行永、森、浜	
				祖母谷	八一・七	溝尻、多門院、堂ノ奥	
				与保呂	六八・三	与保呂上、与保呂下常	
				大内庄	一九八・五	上安久、上安、清道、天台、倉谷、境谷、今田福来	
				池内谷	七七・四	堀、池下、布敷、別所、白滝、上根、寺田、岸谷	
				朝志楽来荘	一二・二	田井、成生	

第二表 田段別時代比較

時代別	調査時点		丹後国五別	総加反別郡	鎌倉時代基準比	奈良時代基準比	摘要
	西	年号					
奈良時代	八世紀	条里制時		五六四町歩	四八	一〇〇	一郷五〇戸×一戸当一町三反 余部は半郷神戸七戸と推計
平安朝	西九二六	延長四年	四、七五六町歩		一〇二	二二二	和名類聚抄による
鎌倉	西一、二八八	正応元年	四、六六七	一、一七一	一〇〇	二〇八	丹後惣田数目録による 反別は当初より不動とす
徳川時代初期	西一、六〇二	慶長七年	八、八六五		一九〇	三九六	京極氏検地分
徳川時代中期	西一、八〇〇頃	享和頃		二、三七二	二〇三	四二三	土目録による

備考

1 条里制による一戸当反別算定基礎(中央公論社日本歴史載)

口分田六才以上良民男子二反、女子はその2/3 即ち一反二二〇歩

賤民は良民の男女別夫々の1/3

正丁二人小子一人縁子一

田令による口分田

その穫米七石五斗から

一戸族標準十人として

丁女三人老女一人小女一人縁兒一人 総計一町二段二四〇歩

十二石七斗の間

一郷約六十五町歩 人口五六百人

第三表 田段別郷別時代比較

郷名	時代	奈良	平安	鎌倉	徳川初	徳川中	開発順位	摘要
志楽郷		(六五〇町歩)	一四〇	(一五〇町歩)	四七〇	(三三三町歩)	2	
凡海郷		(一〇〇)	二〇〇	(二八九)	四六〇	(五一〇)	3	此の郷古代末迄に解体
高橋郷		(一〇〇)	一八〇	(二五八)	四五〇	(三二〇)	4	
大内郷		(一〇〇)	一四〇	(一八〇)	三八〇	(四二五)	6	
田造郷		(一〇〇)	一八〇	(二五九)	四九〇	(三五七)	1	
志託郷		(一〇〇)	一三〇	(九五三)	三四〇	(三七八)	7	
有道郷		(一〇〇)	九〇	(五八二)	一五〇	(一六五)	10	此の郷中世末解体
川守郷		(一〇〇)	一二〇	(一三五)	二七〇	(一九七)	9	
神戸		(九〇)	一四〇	(一六七)	四二〇	(四六〇)	5	
餘戸		(三五〇)	一四〇	(一七四)	三二〇	(二四三)	8	旧河守上村地区とす
平均(合計)		(五六四)	二二二	(二〇八)	三九六	(四二二)		

備考

概そ由良川上流地域の開発順位の低位にあるは注目に値する。

即ち逆に云えば後代開墾の余地越え程開けたところで郷戸密集地区と云う事になる。

第四表 戸数及び人口時代別比較

区分	戸数比較			人口比較			徳川末期		
	奈良時代	徳川初期	明治初年	奈良時代	徳川初期	明治初年	村計高	一戸当石高	一戸当田畑
郷名	奈良時代	徳川初期	明治初年	奈良時代	徳川初期	明治初年	村計高	一戸当石高	一戸当田畑
志楽郷	(五〇〇戸)	(七〇〇戸)	(一、三九〇戸)	(五〇〇人)	(三、四〇〇人)	(三、五〇〇人)	五六〇三石	四石八斗	四反四畝
凡海郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(三、三二〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	六一〇五	三・七	三・四
高橋郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、七〇〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	四六〇三	五・四	五・〇
大内郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、八〇〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	四三〇〇	四・七	四・三
田造郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、九〇〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	四八〇〇	四・三	四・〇
志託郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、一八〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	三三三〇	三・四	三・一
有道郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、二六〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	二二八一	三・六	三・三
川守郷	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、四七〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	二八八五	三・九	三・六
神戸	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、四七〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	八三一	二・〇	一・九
餘戸	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、二五〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	一、六五六	六・六	六・一
平均(合計)	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、二五〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)	三七三三	四・一	三・八
全国平均	(一〇〇戸)	(一、〇〇〇戸)	(一、二五〇戸)	(一〇〇人)	(三、三二〇人)	(三、三二〇人)			

備考

1 人口は徳川初期加佐郡は不詳につき全国比明治初年を一〇〇として逆算し、その六〇%の数值を採用した。(元禄十年田辺藩人口百姓町人合せ二二、四四八人とあり推計と大差ない)

2 尚戸数徳川初期推定右に准じた。之も元禄十年田辺藩民戸数五、二二二戸とあり、近値数を示してある。尚本表数字は百姓分のみ第三表によると田の増加が四倍に對し本表戸数の増加度が二十倍で人口増が八倍となり一見アンバランスのようであるが、農耕面積は古代は鋭利な農耕器具が乏しかったので畑が少なかったが次第に進み畑作が増加し、徳川末期には田の四割強の畑が有ったので第三表徳川中期を田畑計に修正すると四二三×一・四二六〇となる。

又戸数は当初は郷戸制(大家族制)で単戸制の二三倍であったので之も一応二倍半と見て修正すると八倍となる。つまり右のように食直して見ると幕末頃は加佐郡一円として凡そ七倍位の増加となる。

附表 丹後国諸莊郷保惣田数目錄私注

目録

摘要 (管内村方段別は享和年間土目録田反別)

(注) 箇所は虫食不明部を示す

目	摘要
一 倉橋郷 百六十七町七段内 百八町一段七十五歩領家 延永左京亮	溝尻 33町5反 多門院 20.0 堂ノ奥 28.2 浜 42.7 行永 74.8 森常 53.0 木ノ下 17.0 与保呂 31.1 計 320.5 全上比 190
二 田辺郷 百九十九町五段二歩 保五町七段 細川讚州	円満寺 35町0反 引土 36.9 公文名 23.7 七日市 17.8 京田 21.9 十倉 6.2 真倉里 8.6 由布 25.2 女村寺 21.7 野村寺 25.9 城屋 27.5 上福井 40.1 下福井 21.1 大君 7.0 吉田 12.3 青井 4.9 白杉 3.0 計 338.6 全上比 150
三 御金莊 十九町六段三百二十歩 大野保 一町六段九十歩 本主 大聖寺	円満寺は城内及び町地も含む

<p>一、大野保 一町六段十歩 本主</p>	<p>一、気多保十二町五段内 五町 五町 二町五段 兵部少輔殿 速成就院 慈光寺</p>	<p>一、保五町七段 細川讚州</p>	<p>一、池内保十九町二段内 八町三段八十歩 八町四段百九十七歩 二町五段 庶子分 吉原殿 成吉越中 下官四郎左衛門</p>	<p>一、余部里六十町八段二百九歩 鹿王院 十八町歩 享徳元年新官国分寺段銭致沙汰之此外、公方御免ノ由申之</p>
<p>現字下福井大野辺に比定す 記載順位は茲なるも集計の都合上田辺郷の欄に掲記す</p>	<p>喜多 19町3反 全上記 160 喜多村は中世怒賀田部村と称した由 北吸は古名北汐ともあり気多保の転訛とも考えられる</p>	<p>此の保は保名推定困難であるが領主名や配列順位の関連から推して田辺郷の欄に掲記す</p>	<p>堀 13町5反 池下 19.3 布敷 10.6 別所 10.7 上根 5.0 寺田 10.8 白滝 4.1 岸谷 3.4 計 77.4 全上比 400</p>	<p>下安久 15町4反 和田 21.4 長浜 15.4 余部下 26.8 余部上 20.8 北吸 20.3 計 120.1 全上比 197</p>

<p>一、志高荘二十三町一段百七歩内 十四町八段百八十歩 杉谷三郎左衛門 八町二段 二百八十七歩 不知行</p>	<p>一、宇谷郷三十六町内 十八町歩 四町五段 井田河内守 十三町五段 法万院 三上因州</p>	<p>一、有道郷五十二町六段百一歩内 十七町六段三百五十三歩 二ヶ村 上ノ大方殿 三十四町九段百八歩 四ヶ村 山名有道殿</p>	<p>一、由良郷四十九町九段二百九十二歩内 二町一段四十五歩 和江村岸九郎左衛門 二十五町三段百二十一歩 建福寺 十八町八段五十九歩 本光寺 三町七段六十七歩 不足可記明之</p>	<p>一、大内荘九十七町二段三百歩 三上江州</p>
<p>志高 42町6反 計 42.6 全上比 185</p>	<p>久田美 34町8反 桑飼上 15.9 桑飼下 20.0 計 70.7 全上比 196</p>	<p>高津江 9町4反 三河 二箇 32.8 南有路 30.7 北有路 30.2 計 103.1 全上比 200</p>	<p>由良 46町2反 石浦 7.7 蒲江 20.9 和江 13.3 油江 10.6 神崎 0 計 98.7 全上比 190</p>	<p>上安久 19町0反 上安 39.5 天台 7.3 福来 19.4 倉谷 43.0 境谷 10.1 伊佐津 26.0 今田 34.2 計 198.5 全上比 200</p>

備考

1 虫食部の補入は先学諸氏の考証を出来るだけ踏襲し尙残る不明箇所及び各郷荘保の管下里邑等は旧町村の境域や近世村落段別の対比や亦四囲のバランス等考慮しつつ、独断ながら補入した。

注 進丹後国諸郷保惣田数目録。人皇九十八代伏見御宇
戊子年也合正応元年 日
右之現状は康正元年八月に注進 (当時丹後守護職一色義直)

以上 千百七十一町百九十八歩

志楽荘二百町九段百八十歩内
九十四町三段三百四十歩 西大寺
四十二町五十歩 朝来村 三宝院
五町百五十歩 河辺村公文分 大方殿様
七町一段三百歩 春日村公文分 伊賀治郎左衛門
五町四段二百九十歩 朝来村公文分 同人
二十二町二段二百三十八歩 河辺村 安国寺
(但し十五町歩致御公事)
二十二町二段二百三十八歩 延永左京亮
三町歩 国貞名 安国寺

土目録による計二千三百七十二町一段歩
上欄比 二〇〇

登尾	22町6反	三多	12町0反
山	10.7	弥	6.7
白屋	15.2	小橋	9.6
源寺	37.2	大波	33.5
田中	24.4	朝来中	15.7
小倉	27.6	成生	2.1
安岡	22.7	野原	12.9
鹿原	22.3	田井	10.1
吉坂	13.2	大山	15.9
赤野	11.1	観音寺	6.7
平	27.6	枡尾	19.1
佐波	2.1	笹部	1.6
千歳	4.0	由里	9.6
大丹	10.3	西屋	12.4
瀬崎	8.7	河辺中	14.8
		田	7.7
計 450町1段			
全上比 225			

大川社十六町九段二百七十歩内
六町五段百八十歩 延永左京亮
六町三百五十二歩 公文分 渡辺源左衛門
九町七段百九十歩 御神領

大川	14町8反
三日市	19.4
計	34.2
全上比	200

御金 田辺郷混入
十九町六段三百二十歩 大聖寺殿

岡田荘三十九町九段四歩内
二十町四段 御料所庄主
十町二段二百三十歩 地頭下山殿
五段四十五歩 大祥寺
三町四段 大俣分
五町三段二百四十八歩 無現地

富室	14町3反
上漆原	14.4
下漆原	9.5
河原	11.5
西方寺	16.5
由里	25.0
大俣	15.1
地頭	14.8
計	121.1
全上比	300

普甲寺十四町九段三百四歩内
五町三段 当知行
九町六段三百四歩 不知知行

内宮	5町1反
毛原	6.0
北原	3.0
橋谷	4.5
仏性寺	5.8
二俣	17.7
計	42.1
全上比	280

祇園寺莊六十五町三百三十四歩内
六十二町七段百八十三歩 光寿院
十二町三段百五十一歩 丸田村 羽太修理進

丸田	28町4反
八田	32.9
上東	21.4
下東	30.6
水間	22.3
中山	2.4
計	138.0
全上比	224

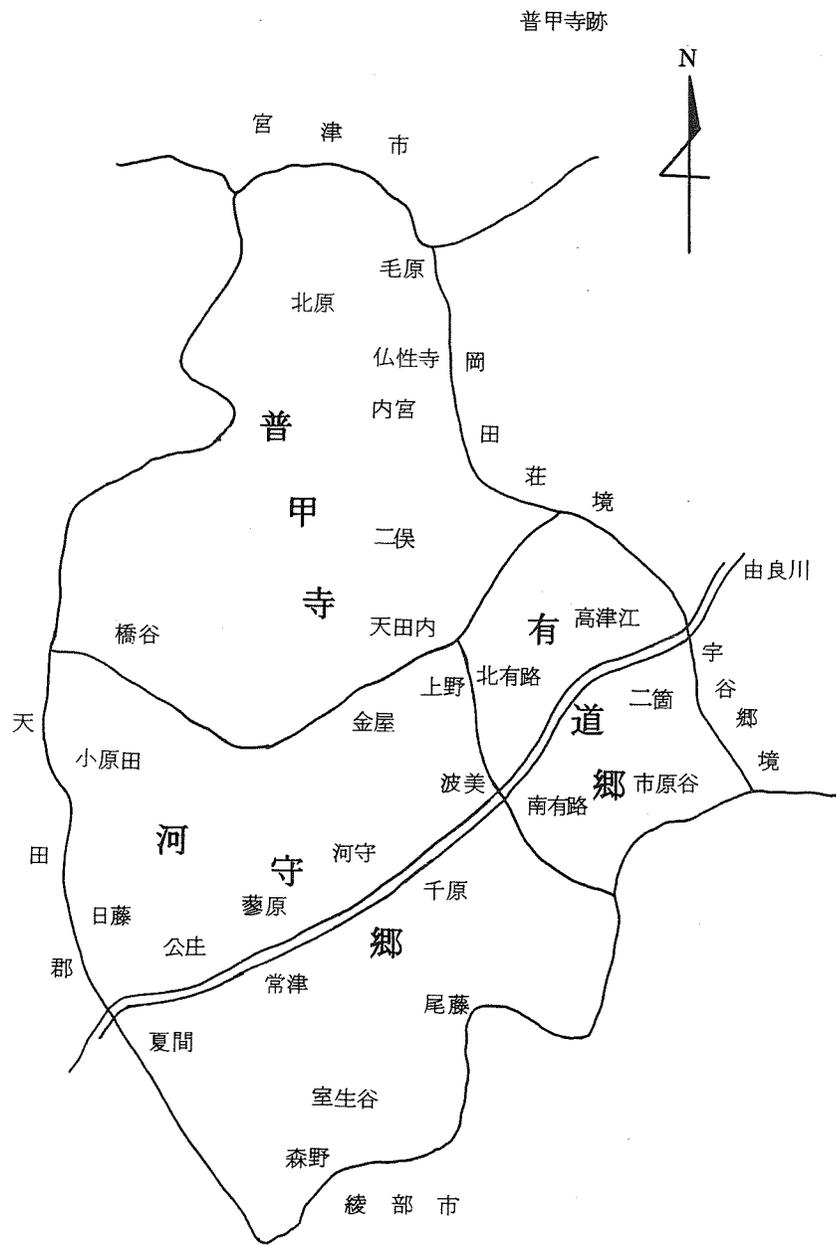
河守郷六十五町二段三百五歩 大和弥九郎
二十四町二反歩 享徳元年新宮国分寺段銭致沙汰之此外
公方御免之由申之

原田	9町0反
天田内	15.2
関	47.0
波美	13.5
蓼原	8.8
公庄	28.0
上野	7.4
金屋	20.5
千原	6.0
尾藤	20.7
常津	8.2
南山	14.0
夏間	3.7
計	197.0
全上比	225
宮津領含み	

清園寺 川守郷混入
二十二町二百六十歩 大和弥九郎

当庄は気多保以北金崎方面と以南の田辺郷中に数ヶ所散在した庄と推考す
近世郷管集計の都合上田辺郷の欄に掲記す

中世郷庄境域図 其ノ二



中世郷庄境域図 其ノ一

